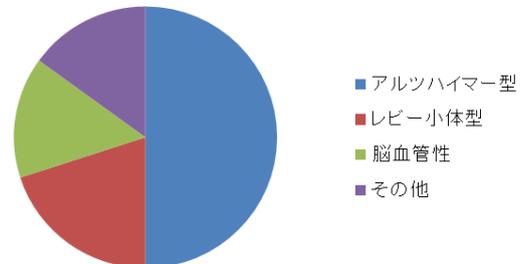


# 1. レビー小体型認知症とは

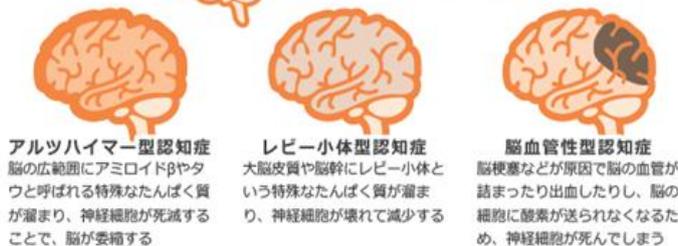


レビー小体型認知症は、アルツハイマー型認知症について多く、脳血管性認知症とともに「三大認知症」といわれています。主に 65 歳以上の高齢者に多くみられますが、40～50 歳代の人発症も少なくありません。また、アルツハイマー型認知症は女性に多くみられますが、**レビー小体型認知症は男性に多い傾向があります。**

高齢者認知症の種類と割合



健康な脳と認知症のタイプによる脳の変化

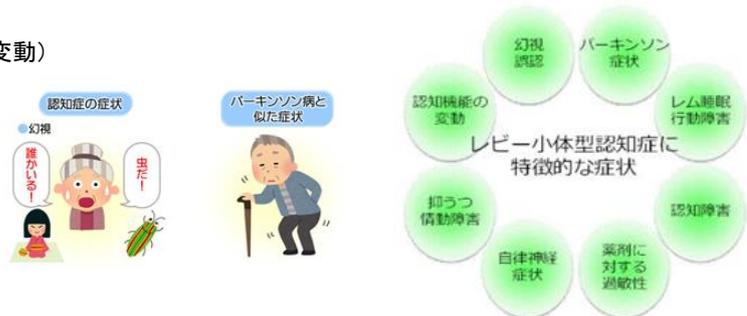


## レビー小体型認知症の主な症状

注意力の低下や視覚認知の窓外、記憶障害などの認知機能障害がみられますが、**初期から中期にかけては記憶障害が目立たない場合も多くアルツハイマー型認知症のような一般的な認知症だとは認識されにくい面があります。**

- 実際に見えないものが見えたり(幻視)
- その時々による理解や感情の変化(認知機能の変動)
- 歩行など動作の障害(パーキンソン症状)
- 大声での寝言や行動化(レム睡眠行動障害)
- 自律神経症状
- 抑うつ症状
- 薬に対する過敏症など

特徴的な症状があらわれます。



## レビー小体型認知症とアルツハイマー型認知症の主なちがい

アルツハイマー型認知症では、もの忘れや徘徊などが目立ちますが、**レビー小体型認知症では、実際にはないものが見える幻視や、大声で寝言、また、頭がはっきりしているときと、そうでないときの差がはげしいなどの症状が多くみられます。**同じような認知症といっても、その症状はちがいがります。**これらの認知症ごとの症状のちがいにともない、適切な介護の方法や、周囲の人に望まれる対応も変わるため注意しましょう。**

	レビー小体型認知症	アルツハイマー型認知症
困りごと・生活障害	主に注意障害・視覚認知機能に基づく	主に記憶障害に基づく
幻視	多い	少ない
妄想	「嫉妬妄想」など幻視に基づく妄想	「物盗られ妄想」など記憶障害に基づく妄想
徘徊	少ない	多い
認知機能の変動	あり	なし
睡眠障害	レム睡眠行動障害に伴う睡眠障害	単純な睡眠障害
パーキンソン症状	多い	まれ

※参考資料:監修:小阪憲司先生「レビー小体型認知症介護ガイドブック」から抜粋させていただきました。

※次回は「2. レビー小体型認知症の介護の基本」